

自然と歴史

船上山では、8世紀に、山岳仏教の苦行者が修験道という、神道、仏教およびアニミズムからの要素を取り入れた日本独自の融合宗教を行っていました。修行者は断食、隠遁、瞑想のような禁欲に励んでいます。船上山は、三徳山や大山と共にこの地域の修験道の三霊山(伯耆三嶺)の1つでした。14世紀には、船上山は壮大な戦いの舞台でした。後醍醐天皇は、当時支配していた鎌倉幕府から隠岐島へ島流しにされたあと船上山へ逃げました。ここで彼は兵を挙げ、鎌倉幕府を倒し、1333年に建武新政を実施しました。しかし、1336年に新しい宮司政権である足利幕府が権力をもち、短命に終わりました。軍事支配は1868年の明治維新まで続きました。

船上山の東側の崖は、柱状節理とよばれる地質で、百万年前に形成されました。その形は日本の伝統的な屏風に例えられます。高さ100メートルの滝は必見です。桜祭りは4月下旬に近くの船上山万本桜公園で、八重桜が満開になるときに開かれます。秋の壮大な紅葉も有名です。

アクティビティ

ハイカーは春には新緑を、秋には落葉樹の赤、黄、オレンジの様々な色合いを楽しむことができます。登山道は展望駐車場の近くにあり、ベースキャンプにある船上山少年自然の家は、宿泊施設や、ハイキング、自然観察、カヌー、キャニオニングなどの活動に役立つ支援を提供しています。